

「何一つ当然ではない主の恵み」詩篇103：1-5 12・5・20 I 何一つ当然ではない主の恵み。1. 主の良くして下さったこと。「主は、あなたのすべての咎を赦し（主の十字架の愛、苦しみ、完全な償い、神との関係の回復。この恵みが最初の意味＝すべての恵みが与えられる源泉だから）、あなたのすべての病をいやし（肉体・精神・霊の支え）、あなたのいのちを穴から贖い（主の十字架と復活の恵みにより私達を永遠の滅びから救い出される）、あなたに、恵みとあわれみの冠をかぶらせ、あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、鷲のように、新しくなる（私達の心の内側を新しくされ続ける）」：3-5。2. 教会への主の恵み。①会堂の壁の修理の守り。台所、トイレの窓、礼拝堂の数か所、玄関、地下室の雨漏りがなくなった恵み。②会堂返済のここまでの奇跡的な守り。③素晴らしい神を礼拝するための土地と会堂、場所が与えられている事は当然、当たり前ではない。④駐車場が冬も与えられた恵み。⑤神が教会の必要を満たし続けておられる恵み。足りない時、その都度、与えられて。今日まで。神は生きて働かれています。II 何一つ当然ではない主の恵みへの応答。1. 心からの感謝。：2→「主の良くして下さったことを何一つ忘れるな」。忘れやすい私達。当然、当たり前とってしまう私達の弱さ。それゆえに、意識的に主の恵みを数え、ノートに記し続ける。何一つ「当たり前」ではない事を自覚し続ける。そのことを思い起こさせてくれる詩（癌の為に右足を切断し、その再発と戦いつつ、与えられた生を生き抜いた青年医師、井村和清氏の詩）：「あたりまえ こんなすばらしいことを、みんなはなぜよろこばないのでしょう あたりまえであることを 手が二本あって、足が二本ある行きたいところへ自分が歩いてゆける 手をのばせばなんでもとれる 音がきこえて声がでる こんなしあわせはあるのでしょうか しかし、だれもそれをよろこばない あたりまえだ、と笑っています 食事が食べられる 夜になるとちゃんと眠れ、そして又朝がくる 空気を胸いっぱいにする 笑える、泣ける、叫ぶこともできる 走り回れる みんな当たりの事 こんな素晴らしい事を、皆は決して喜ばない そのありがたさを知っているのは、それを失くした人たちだけ なぜでしょう あたりまえ」。「あたりまえ」の世界にすんでいるものは「あたりまえ」のありがたさ、素晴らしさに気が付かない。すべてが「あたりまえ」となってしまうから。しかし、「あたりまえ」が「あたりまえ」でなくなるとき、それは恐ろしい経験である。その恐ろしさを通して初めて「あたりまえ」のありがたさがわかる。長年ハンセン病の療養所伝道に献身されている河野進牧師の詩「病まなければ 奉げ得ない悔い改めの祈りがあり 病まなければ 聞き得ない救いのみ言葉があり 病まなければ 負い得ない恵みの十字架があり 病まなければ 信じ得ないいやしの奇跡があり 病まなければ 受け得ないいたわり

の愛があり 病まなければ 近づき得ない清い聖壇があり 病まなければ 仰ぎ得ない輝く御顔がある」。困難や苦悩が私達にあるが、神の恵みも十分与えられている事を意志的に数え、覚え神に感謝したい。今は悩みの内にあるが、私達の罪の為の主の十字架の恵み、愛を感謝できる。主は復活され、今、つらい時も、私達と共にいて下さることを感謝したい。これまでの人生の中で与えられた数多くの恵みを数えて神に感謝したい。思いを集中し、すべてのエネルギーを動員して、神に感謝し、神をたたえる理由を数えたい。神は私達の頭の毛さえも数えられているほどに私達を愛しておられる。何一つ当然ではない恵みを感謝したい。2. 主の恵みへの応答としての礼拝、賛美。3. 主の恵みへの応答としての奉仕。主と教会の為に奉仕をさせていただける恵み。「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量によってふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです」エペソ4：16。4. 主の恵みへの感謝のしるしとしてのささげもの。主の教会の必要の為にささげる恵みあずかる事ができる特権、恵み。Ⅲ主の教会に必要なが生じ、必要の満たしが求められる時。これからも。1. 教会の真の所有者、責任者、満たし主である全能の神に信頼して、教会員皆で心から祈り求める。約束の御言葉を信じて→「神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることのできる方です」Ⅱコリ9：8。教会の皆で祈り、皆で生ける神を体験して行く。そのようにして教会が霊的に成長して行く。2. 私達も、主と主の教会を愛して、主の恵みに感謝し、ささげる恵みにあずかる。「苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。…彼らは自ら進んで、力の応じ、いや力以上にささげ、聖徒たちをささえる恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、まず自分自身をささげ、また、私達たちにもゆだねてくれました」Ⅱコリ8：2-5。神に感謝して、皆でささげる時、主の教会を建て上げる恵みに皆であずかる。神の恵みをまた体験する。3. 神は、すべてをご覧になっており、報いて下さる。「神は正しい方であって、あなたがたの行いを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです」ヘブル6：10。私達は、神の恵みを忘れ易いのに、神の側は、主の恵みから生まれる私達の行い、愛をお忘れにならず、報いて下さる。「私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです」Ⅱコリ5：10